

AIセーフティ・インスティテュート（AISI）関係府省庁等連絡会議（第1回）

議事要旨

1.日 時 令和6年2月29日（木）17:30～18:05

2.場 所 中央合同庁舎8号館1階講堂

3.出席者

内閣府特命担当大臣（科学技術政策）	高市 早苗
内閣府科学技術・イノベーション推進事務局統括官	渡邊 昇治
内閣府科学技術・イノベーション推進事務局参事官	菅田 洋一
内閣府科学技術・イノベーション推進事務局参事官（司会）	木村 裕明
内閣官房国家安全保障局内閣審議官	高村 泰夫
内閣官房内閣サイバーセキュリティセンター副センター長	中溝 和孝
警察庁サイバー警察局長	大橋 一夫
デジタル庁デジタル社会共通機能グループ統括官	楠 正憲
総務省官房総括審議官（情報通信担当）	湯本 博信
総務省国際戦略局長	田原 康生
外務省総合外交政策局審議官	熊谷 直樹
外務省経済局参事官	大河内昭博
文部科学省大臣官房サイバーセキュリティ・政策立案総括審議官	長野 裕子
経済産業省商務情報政策局長	野原 諭
防衛省大臣官房 サイバーセキュリティ・情報化審議官	中西 礎之
国立研究開発法人情報通信研究機構理事	茨木 久
国立研究開発法人理化学研究所理事長	五神 真
大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立情報学研究所 所長	黒橋 禎夫
国立研究開発法人産業技術総合研究所理事長	石村 和彦
独立行政法人情報処理推進機構理事長	齊藤 裕
AI セーフティ・インスティテュート所長	村上 明子
AI セーフティ・インスティテュート事務局長	平本 健二

#### 4.議事次第

- (1) 高市内閣特命担当大臣（科学技術政策）挨拶
- (2) 村上AIセーフティ・インスティテュート所長挨拶
- (3) AIセーフティ・インスティテュートの今後の活動について

#### 5.公開資料

- 議事次第
- （資料1）AIセーフティ・インスティテュート関係府省庁等連絡会議設置要綱
- （資料2）AIセーフティ・インスティテュートの今後の活動について

#### 6.議事要旨

- (1) 高市内閣特命担当大臣（科学技術政策）挨拶

皆様、こんにちは。本日も大変御多用の時間帯にお集まりいただき、ありがとうございます。

AIの安全性への関心が国内外で高まっております。総務省、また経済産業省の事業者向けのガイドラインはパブリックコメントも終了しまして、取りまとめの段階でございます。また、内閣府におきましても、ガイドラインの履行確保策につきまして、各省庁とも御相談をさせていただきながら調査・検討を進めております。また、自民党の有志議員から「責任あるAI推進基本法案」の骨子が公表されました。また、ミュンヘン安全保障会議では、世界の大手AI企業20社が生成AIによる選挙妨害コンテンツの抑制に合意をしたという状況でございます。

2月14日付でAIセーフティ・インスティテュートを設置しました。以下、AISIと呼ばせていただきますけれども、所長にはかつて日本IBMのAI研究者としても活躍をされ、AI技術やデジタル・トランスフォーメーションにも大変お詳しい村上明子さんに御就任を頂きました。

AISIでは、英国や米国など諸外国の機関とも連携しながら、AIの安全性に関する調査や基準、手法の検討を進めていただきます。AISIの取組は国民の皆様の安心・安全を考えると、とても重要なものになります。そのAISIの業務は多岐にわたります。良い成果を出すためには、今日お集まりの関係省庁、また、関係機関の皆様からの御協力が不可

欠でございます。政策的な議論、また、知見の共有・集約も進めていただかなければならないのですが、是非人材面でのAISIへの御協力もお願い申し上げます。

本日はどうかよろしくお願ひいたします。ありがとうございます。

## (2) 村上AIセーフティ・インスティテュート所長挨拶

ありがとうございます。AIセーフティ・インスティテュート、AISIの初代所長を拝命いたしました村上明子でございます。よろしくお願ひいたします。

先ほど大臣の方から御説明ございましたように、現在損害保険ジャパンという会社でCDO（チーフデジタルオフィサー）を現在務めておりまして、本日発表になりましたが、来年度はチーフデータアナリティクスオフィサーといたしまして勤務しており、こちらのAISIの所長の方は兼務にて務めさせていただくこととなっております。

少しだけ私の経歴の方をお話しさせていただければと思います。私は、キャリアのスタートは研究者でございまして、先ほど申し上げたように外資のITの会社の基礎研究所で自然言語処理の研究をしておりました。その後、AI、その当時は冬の時代と呼ばれていたのですけれども、その後、見事にAIの花盛りになりまして、その後、事業の方でソフトウェア開発の方にキャリアを移転しました。そのソフトウェア開発の製品を基に企業の外側からDXを支援しておりまして、そのきっかけもございまして、御縁ありまして今の会社にいるというところでございます。

今お話ししたように私は研究者、そして、ソフトウェアのAIの開発、そして、AIのユーザーという三つの立場を経験しております。それぞれの立場でやはりAIの安全性というものは非常に私も重要に思っております。特に最近の生成AIの急激な進化によりまして、私も日々このAI利用のリスクというものに本業でも向き合っております。このような三つの異なる経験もございまして、また、研究者ではアカデミアの皆様、そして、開発では開発コミュニティ、そして、今は企業、事業会社としても経営に携わっておりますので、そちらの人的ネットワークというものもございまして、それぞれの分野における御意見なども頂く機会が多いかと思っております。そういったものも生かしながらしっかりと努めてまいりたいと思っております。

この広島AIプロセスから始まりまして、日本が牽引してまいりましたAIの安全性の動きというのは、今、大臣から御説明もございましたように世界でもスピード感を持って

進んでおります。特に英国、米国との連携、同様な組織も設立されましたので、その組織との連携、そして、世界的に進んでいる国から学び、そして、日本が牽引していけるような形で進めていって、先ほど述べたような私もAIセーフティ・インスティテュートで策定いたしますガイドラインなどにも盛り込んでいけるといふふうに思っております。また、日本のAI産業が世界で戦い、そして、日本で世界の最先端の技術というのを安心して使えるような、そういったものをしっかりサポートできるようにといふふうにも考えております。

関連省庁の皆様におかれましても、この今の勢いを是非加速させるべく、是非積極的な御参画、御協力をお願いできればといふふうに考えております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

### (3) AIセーフティ・インスティテュートの今後の活動について

本日出席している関係省庁、関係機関より、今後のAIセーフティ・インスティテュートに対する協力や貢献などについて発言があった。

以上